

### 新たな施工方法を提案する漆喰専用下地材。



カルシウム系塗材・下地材（砂漆喰ベース）

用途；主にせっこうボード用下地材

原料；消石灰/石灰砂/海藻のり/水溶性樹脂/  
植物繊維/化学繊維

単位・荷姿；20kg紙袋入

標準塗り厚；1.0mm

標準使用量；10㎡（3坪）/袋

日本漆喰協会化学物質放散基準 合格第1618号

国土交通大臣認定 不燃材料 NM-4569(1) 下塗材

#### ●内装下地にも砂漆喰

壁にただ薄く塗るだけの漆喰では強度も機能も心配。下地からもう少しだけ厚みをつけて仕上げたいという要望にお応えしました。従来の漆喰に砂と微量の樹脂を加え、せっこうボードへの接着力を与えています。また、キレイな仕事は下地からキメていきたいもの。こだわる左官は下塗りからこだわりたい。砂漆喰をベースにしているので、しっかりと塗り重ねることも出来るほか、シーラーを使わず上塗りの水引きを均等にそろえることも可能です。

#### ●パテもシーラーも使わない。

目地処理や釘アタマ処理にも固練りした本材を。せっこうボードに直接付着するのに加え、程よい水馴染みをするので、ボードにも砂漆喰にもシーラーは必要ありません\*。極力化成品の使用を控えたい現場での健康配慮にも最適です。\*切断加工部などのせっこう露出部を除く。

#### ●F☆☆☆☆越える、安心の漆喰品質

外部機関での検査を行うとともに、日本漆喰協会が定める化学物質放散基準に合格。

F☆☆☆☆の基準より、はるかに安全な建材であることが証明されています。

# ●壁面せっこうボードへの施工仕様

## 1 素地確認

- 1.1 せっこうボードが貫や胴縁に455ミリ以内の間隔で固定されており、固定釘またはビスの間隔が周囲100mm以下、受け木の上150mm以下であること。  
※ せっこうボードが接着工法、直張り工法である下地への施工は避けること。
- 1.2 以上を踏まえ、素地となる板がしっかりと固定されていること。  
※ 下地の動きがないよう、施工前に工務店や大工との打ち合わせを十分に行うこと。

## 2 養生

- 2.1 柱など、チリ廻りの養生をマスキングテープなどで十分に行うこと。  
※ 木材にネオ・タッチや漆喰が付着するとアルカリの影響で変色させてしまう。

## 3 素地調整

- 3.1 現地施工により石膏が露出している目地がある場合はシーラー処理を行うこと。
- 3.2 部材の取り合いや設計上の都合で合板の上などにも施工の必要がある場合には、アク止めシーラーなどの処理を行う。
- 3.3 石膏下塗りへの施工の際はその材料を完全乾燥させた後、シーラー処理が必要。(※おっかけ禁止)

## 4 目地処理下地処理

- 4.1 目地の凹部にはパテは用いず、固練りしたネオ・タッチを使用する。  
※ 本品1kgに水200ml程度が目安。
- 4.2 目地部の伏せ込みには、寒冷紗や左官用メッシュテープなど(50ミリ以上)を使用する。
- 4.3 目地の挙動が懸念される場合は伏せ込みを2重にするなど、入念に処理を行う。  
例)50ミリ幅の上から100ミリ幅など。
- 4.4 振動を受けやすい開口部周辺や入隅、ぶつかり易い出隅などにも寒冷紗(100ミリ以上)を施すこと。  
※ せっこうボードと合板など、異種の素材の取り合いがある場合、ひび割れが起きやすいので入念な処理が必要。サッシやドアの角部周辺などは特に割れやすい傾向にある。

## 5 ネオ・タッチ塗り付け

工程		材料	調合 (質量比)	塗り厚 (mm)	間隔日数(日)	
					次工程まで	最終養生
1	専用下地材塗り	ネオ・タッチ	20	1.0	1以上	-
		水	5.4			

- 5.1 1袋20kg。1ミリ厚の施工で約10㎡の施工が可能。
- 5.2 下付け→上付けの順で平滑に仕上げること。
- 5.3 やむをえず練り置きする場合には乾燥硬化しないよう、密閉容器にて保存し出来るだけ早く使用すること。

## 6 乾燥養生～しっくい上塗り工程へ

- 6.1 ネオ・タッチは完全に乾燥させること。(※おっかけ禁止)
- 6.2 完全乾燥後、丸京石灰の漆喰を施工する場合、シーラー処理は不要。  
※ 完全に乾燥させると漆喰施工に最適な水引き具合となるよう調整しているため。
- 6.3 その他については、日本建築学会 建築工事標準仕様書 JASS15 に準拠のこと。

※上記は丸京石灰が推奨する標準的な施工仕様です。その他の仕様についてはご相談下さい。